

子ども読書支援センターは、子どもの読書に関わる大人の方々をサポートする山梨県立図書館の機能です。当センターの事業や活動内容についてご紹介します。



学校支援セットをリニューアルしました。

山梨県子ども読書支援センターでは、学校を対象に、調べ学習や朝の読書に役立つ本をテーマ毎にセットにして貸し出す「学校支援セット貸出」サービスを行っています。令和5年度にリニューアルしたセット「山梨を知る」と、新設した3つのセット「SDGs」「バリアフリー絵本・児童書」「LGBTQ」を紹介します。

○ 山梨を知る

山梨県の歴史や自然・地理、ゆかりのある人物、昔話など、山梨県について知ることができる本を集めました。貸出回数が多く、人気のあるセットです。写真や図が豊富な本を増やしてほしいという要望をいただき、近年刊行された本も追加してリニューアルしました。



調べるセット「山梨を知る」に追加した本 ▲ (小学校向け) ▲ (中学校・高校向け)

○ SDGs

SDGs (持続可能な開発目標) について知ることができる、小学校向けの本のセットです。SDGsがつけられた経緯や内容のほか、17の目標それぞれについて学ぶことができる本を集めました。



調べるセット「SDGs」(小学校向け) ▲

○ バリアフリー絵本・児童書

誰もが読書を楽しむことができるよう、点字つき・さわる絵本、LLブック、布の絵本、大活字本、ことばを表現するピクトグラム入りの絵本を集めた、バリアフリーな本のセットです。



調べるセット「バリアフリー絵本・児童書」 ▲ (小・中・高共通)

※布の絵本制作：ふきのとう文庫

○ LGBTQ

性的マイノリティをテーマにした本のセットです。多様な性について知ったり、自分らしさについて考えたりするきっかけになる本を集めました。絵本や物語も含まれています。



◀ 調べるセット「LGBTQ」(小・中・高共通)

1クラスにつき1セットまで、1か月間貸出ができます。セットの受取・返却は、当館に直接来館していただくか、当館が指定する市町村立図書館(拠点館)にてお願いします。貸出方法、各セットの内容については、当館ホームページをご覧ください。

■ 「学校支援セット貸出」



▶ 山梨県子ども読書支援センター ▶ 学校支援セット貸出

URL : https://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo_shien/shien_gakkou2.html

ティーンズコーナー（中学生・高校生向け）展示

「植物ってすごい」を開催中です！（～8月23日）

ティーンズコーナーでは、年4回、テーマを変えて展示を行っています。5月～8月のテーマは「植物ってすごい」です。「植物に詳しくなろう」「植物はおいしい」「植物を使う、楽しむ」の3つのカテゴリに分けて本を展示しています。

「植物に詳しくなろう」では、5年間の観察を基に、空き地に多種多様の植物が育つ様子を描いた『雑草のくらし』（甲斐 信枝／さく 福音館書店 1985年）など植物の種類や生態がわかる本や、ドラマの主人公のモデルとなり話題の牧野富太郎氏の伝記『草木とみた夢』（谷本 雄治／文 大野 八生／絵 出版ワークス 2019年）など植物学者の著作や伝記を紹介します。「植物はおいしい」では、食べられる花のレシピを紹介する『エディブルフラワー』（久木 倫子／著 日東書院本社 2007年）、日本各地の野菜の特徴がわかる『地野菜／伝統野菜』（堀 知佐子／監修 こどもくらぶ／編 丸善出版 2016年）など 食用の植物の本を集めました。また、「植物を使う、楽しむ」では、観賞用の植物や、染料や紙の原料として使われる植物、文様など生活・文化の中で親しまれてきた植物に関する本を展示しています。例えば、コンテナで植物を育てる楽しみを伝える『暮らしの寄せ植え』（吉谷 桂子／著 主婦の友社 2016年）、約400種の季語になる植物を写真や俳句とともに紹介する『俳句でつかう季語の植物図鑑』（俳句でつかう季語の植物図鑑）編集委員会／編 遠藤 若狭男／監修 山川出版社 2019年）などです。ぜひご覧ください。

ブックリストは、ホームページに公開しています。

■ティーンズページ



>ティーンズコーナー

URL : <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/teens/index.html>



◆ティーンズコーナー
展示「植物ってすごい」◆

第1回 子どもの読書オープンカレッジを開催しました。

「子どもの読書オープンカレッジ」は、山梨大学附属図書館子ども図書室との共催で、年5回開催している初心者向けの講座です。第1回は、6月2日（金）に造形教育研究者で山梨学院短期大学・山梨大学非常勤講師の伊藤美輝氏を迎え、「子どもの本とアートを考える～行為と表現、言葉の役割～」と題するお話をいただきました。図書館職員、保育士、幼稚園教諭、小学校・中学校の学校司書・教員、ボランティアなど43名の参加がありました。



◆伊藤美輝氏◆

今回は、子どもと絵本との出会いと、子どもの表現（言葉を覚えて話したり、色々なモノの形、色、手触りやにおいなどと出会いながら絵を描くようになること）などは、どのようにつながっているのかをご講義いただきました。造形・表現において、言葉の役割が、「話す」ことではなく「感じて考える」のに重要な要素であり、信頼関係のある大人による言葉かけ、絵本の読み聞かせなどで子どもの中に言葉が蓄積されていくというお話でした。子どもへの語りかけや読み聞かせの大切さについて、改めて考える機会となりました。

参加者からは、「子どもたちは毎日様々な刺激を受けて成長していくということがわかったので、子どもたちに刺激を与えられるような読みかせ、選書をしていきたい」「幼児教育における言葉や芸術は感じ考えることが大切で、絵本の役割も大きいので、それを手渡す役目を頑張りたい」などの感想が寄せられました。